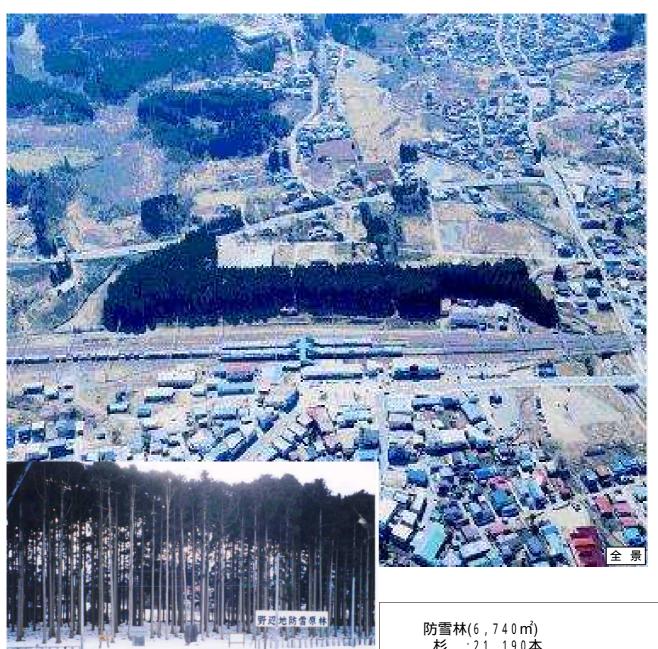
野辺地防雪原林群 (2004年 土木学会選奨土木遺産

昭和24年9月1日開通した日本鉄道㈱盛岡~青森間は、豪雪地帯のため、吹雪や吹溜まりによる線路の埋 没や視界不明瞭等で冬期間の列車ダイヤは大きな混乱を生じた。 開通後2度の冬季を経験した日本鉄道は カナダ鉄道を学び帰国した本多静六博士(後に国立・国定等の自然公園の創設に係わり日比谷公園等を設 計した日本公園の父と呼ばれる。)の指導のもと、野辺地を含めた水沢(岩手県)~小湊(青森県)間において 38箇所約50haの防雪林の植栽を実施した。この成果は5~6年後から挙がり、その後、新規開通した奥羽本 線において採用されている。我が国最初の防雪林として植栽された防雪林は、大半が現在もその効用を発揮 している。特に野辺地防雪原林は、その人工的に造成された美しい防雪林として、JR野辺地駅のホームから も望むことが出来、昭和35年に鉄道記念物第14号に指定されている。



杉 :21,190本 唐松:約1,000本

竣工年:明治26年(鉄道開通の2年後)